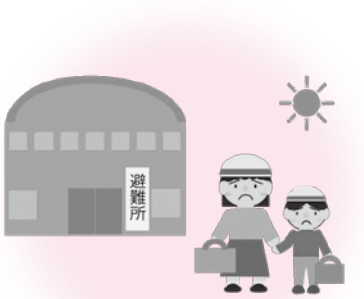
問 アピアランス（外見）ケアの支援は

がん患者のアピアランス（外見）ケアは、社会参加や就労、生活の質を守るために大切なことである。相談センターなどの周知をしては。また、ウイッグや乳房補正具・眉毛シールなどの購入は高額になる場合がある。寄り添う支援のために助成をしてはどうか。

答 アピアランスケアの周知をしていく

相談センターなどの案内を含めてアピアランスケアについて公式ホームページに掲載した。今後も適宜周知をしていく。また、ウイッグなどの購入に対する助成については現在のところ行っていないが、心理的負担を軽減することは重要であると考えている。

菱沼あゆ美 議員
（公明党）



問 防災の更なる強化を

避難所運営職員は、地域と日頃から顔が見える関係を持つべきである。どのように、取り組むか。また、夏の猛暑では児童生徒と避難者の命を守るために、避難所となる学校体育館にエアコン設置が喫緊の課題ではないか。真剣に検討し、実現すべきではないか。

答 避難所の安定運営の為の取組を推進する

地域の自主防災組織と避難所運営職員が訓練を通じて相互理解を図るなど、災害時の避難所の早期開設と安定運営への取組を推進していく。また、学校体育館へのエアコン設置は、教育上の安全や避難所としての必要性を考慮し、施設の改修に併せて検討していく。

問 有害な男らしさ

あるリポートのジェンダーギャップ順位では、日本は146か国中、116位である。伝統と称してこのことを肯定しかねない状況である。暴力や性差別的な言動につながりやすい「有害な男らしさ」を視点に一歩前に踏み出す政策を期待するがいかがか。

答 時代に即した施策を展開する

社会全体として少しづつ性別役割意識に変化の兆しが出ている。そのような中、女性のみならず、男性の生きづらさという視点も持ち合わせ、現状や課題を明確に捉えた上で、男女共同参画プランに基づき時代に即した施策を展開できるよう努める。

遠藤　誠 議員
（WAKABA）

教育支援センター

問 学校のにおい

教育支援センターが条例設置に変わり、６月議会では目的が「学校へ戻る」から「自立」に変わった。センターの責任者が教員のOBで生徒たちが行きやすくなっているのか。単に条文が変わっただけでなく、教員の意識は変わったのか。

答 将来の社会的自立のため工夫を重ねる

条例の改正については全職員で共有している。今後も利用する児童生徒一人一人の状況に合わせて、利用時間や活動内容を柔軟に調整するなどの工夫を重ねることにより、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的自立を目指していくよう支援を継続していく。